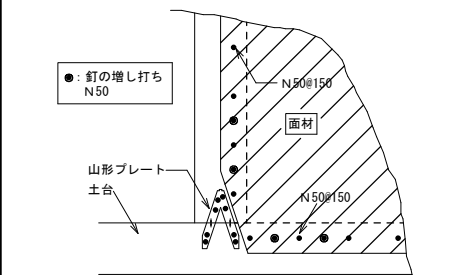
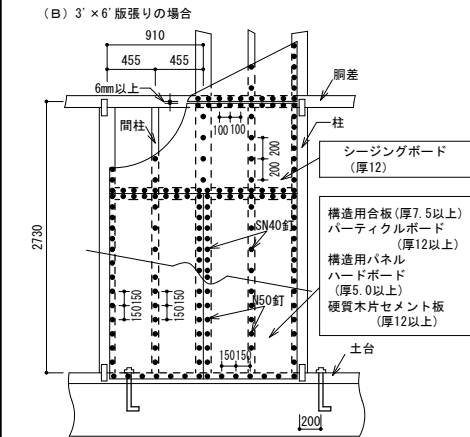
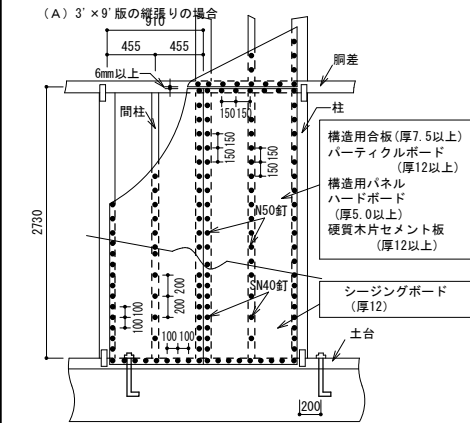
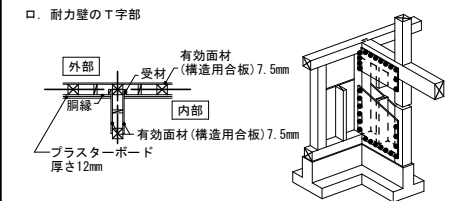
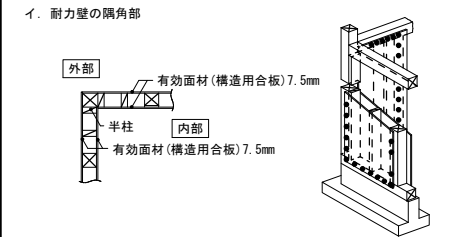


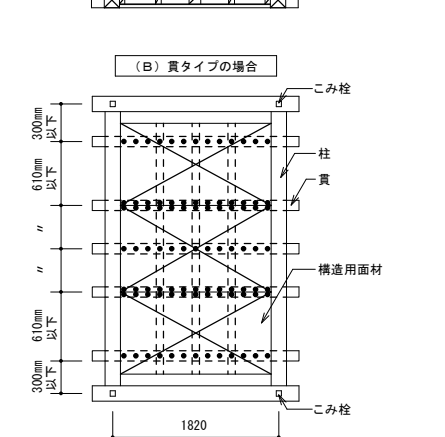
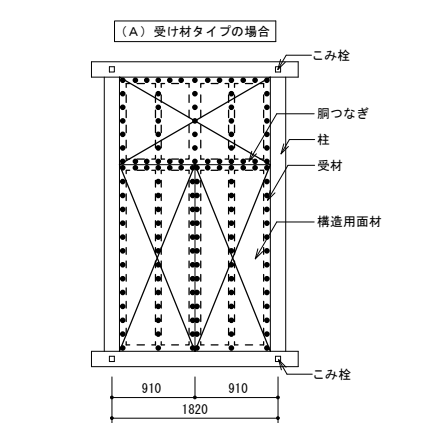
9. 大壁造における構造用面材の張り方



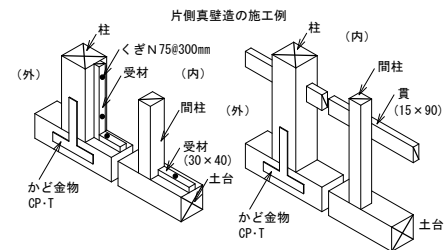
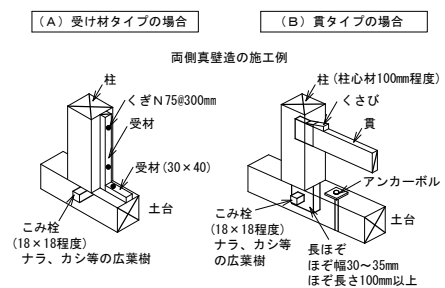
10. 面材耐力壁交差部の施工例



11. 真壁造における構造用面材の張り方

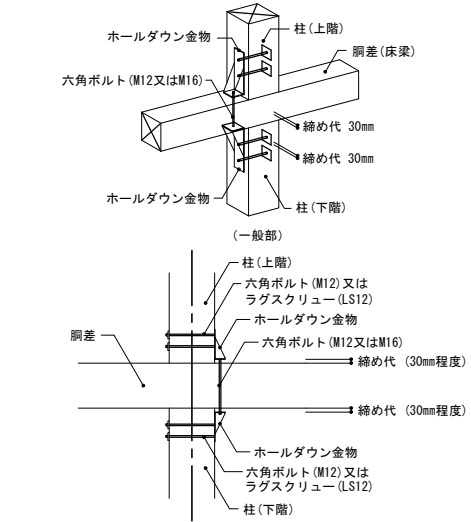
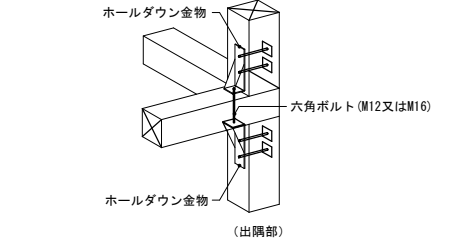


12. 構造用面材を用いた真壁造における柱上下端部の接合方法の例



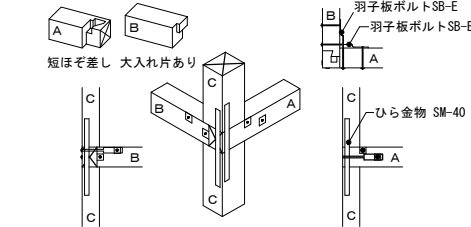
13. 通し柱

- (1) 通し柱は、次のいずれかによる。
(イ) 1階から3階に達する通し柱とする場合
(ロ) 1階から2階までの通し柱と2階から3階までの通し柱を組合せて使用する場合、当該通し柱と管柱とは接合金物で緊結する。
(2) 通し柱に代わる管柱の補強
ホールダウン金物の取付は、次による。
(イ) 上階の柱および下階の柱にホールダウン金物を用い、柱の下部及び上部に締め代を取り、六角ボルト、ラグスクリュー等で各々取付ける。
(ロ) ホールダウン金物は相互に六角ボルトを用い緊結する。

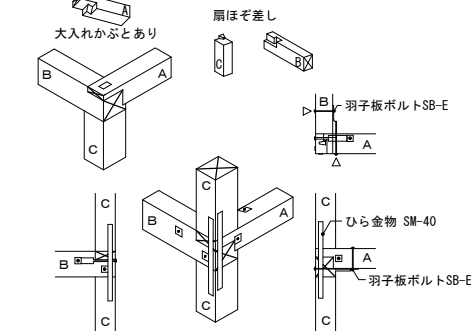


14. すみ柱、出すみの補強例

- イ. 直交する脚差がほぼ同寸でかつ同一高さで取合う場合
一方の脚差(B)を他方の脚差(A)に大入れ片ありに仕掛け、脚差相互を建物の内側に添えた羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ、上下管柱は脚差(A)に短ほぞ差しとし、管柱出すすみ面にひら金物(SM-40)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。

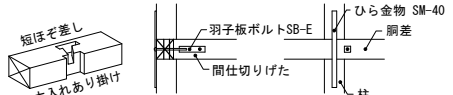


- ロ. 直交する脚差の成が異なり段違いに取合う場合
一方の脚差(A)を他方の脚差(B)に大入れ(かぶと)ありに仕掛け、脚差(A)の下側に添えた羽子板ボルト(SB-F)で脚差(B)を引寄せ、さらに、脚差(B)の内側に添えた羽子板ボルト(SB-E)で脚差(A)を引寄せ、上下管柱はいずれもそれぞれ脚差(A)(B)に短ほぞ差し、管柱出すすみ面にひら金物(SM-40)を当て各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。

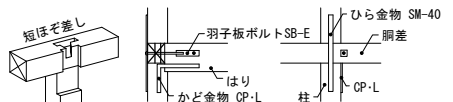


15. すみ柱に準ずる柱の仕口補強例

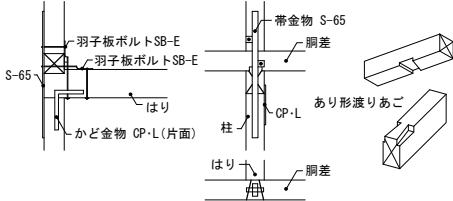
- イ. 脚差と同寸程度の間仕切りけたが脚差と直交して取合う場合
間仕切りけたは脚差に大入れあり掛け、脚差を間仕切りけたより羽子板ボルト(SB-E)で引寄せ、上下管柱は脚差へ短ほぞ差しとし、上下管柱外側にひら金物(SM-40)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



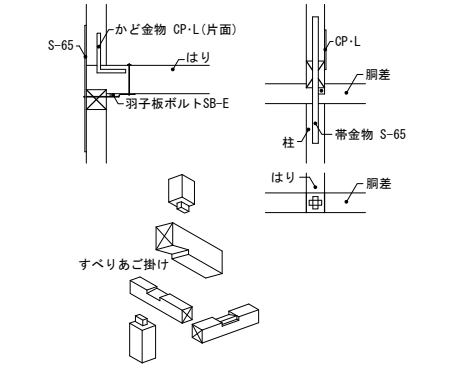
- ロ. 脚差と直交する床ばりがあり、上端が揃う場合
床ばりは脚差に大入れあり掛け、下階柱には大入れ、脚差を床ばりより羽子板ボルト(SB-E)で引寄せる。以下前項イに同じ。床ばりと下階柱とはかど金物(OP-L)片面当て太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



- ハ. 脚差と直交する床ばりが脚差の下側にある場合
床ばりは下階管柱の長ほぞに差し込み、かど金物(OP-L)片面当て太めくぎ(ZN65)打ち、脚差は床ばりにあり形あご掛け、床ばりを羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ、上階管柱を床ばりに羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せる。上階管柱は、脚差に短ほぞ差し、上下管柱相互は外側に帯金物(S-65)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。床ばりと下階柱とは、かど金物(OP-L)を片面に当て太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



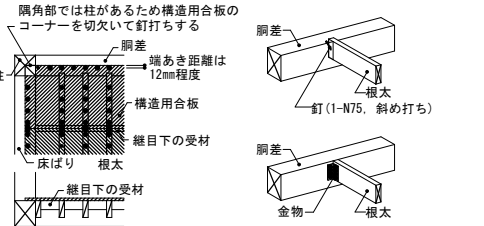
- ニ. 脚差と直交する床ばりが脚差の上側にある場合
下階管柱の短ほぞに脚差を差し込み、床ばりは脚差にすべりあご掛け、脚差より羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ、上下管柱は床ばりへ短ほぞ差しかど金物(OP-L)片面当て太めくぎ(ZN65)打ち、上下管柱相互はハと同様とする。



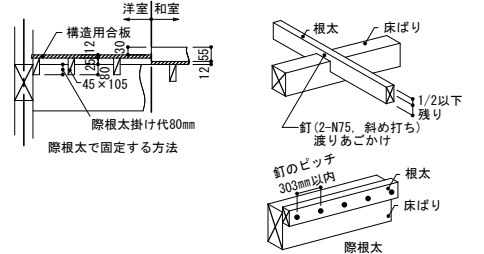
16. 床組み

- (1) 種類：厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。そのサイズは出来るだけ大ききまとし、小間切れにしたものは使用しない。
(2) 張り方：構造用合板の長手方向を根太と直交させる。構造用合板の継手は根太上で突きつけ継ぎとし、継目下に受け材(45×45mm以上)を設ける。
(3) 釘打ち：構造用合板の釘打ちはN50を用い、釘打ち間隔150mm以下で床根太又は床ばり・脚差・受け材等に平打ちする。
(4) 床根太の寸法は45×105mmを標準とし、その根太間隔は、455mm以下とする。ただし、床ばり間隔は1,820mm以下とする。
(5) 床ばり、脚差の仕口補強
柱と床ばり・脚差、床ばりと脚差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。

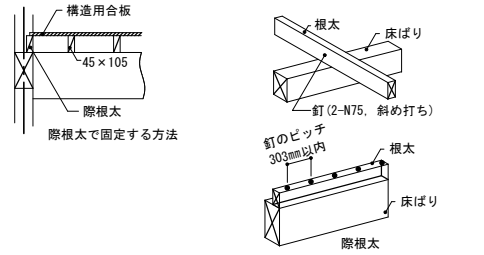
- イ. 根太と床ばり、脚差の上端高さが同じ場合の施工方法
(構造用合板12mm以上又は構造用パネル(OSB)2級以上、N50@150以下
根太#340以下落し込み：床倍率 2倍 / 根太#500以下落し込み：床倍率 1.4倍)
根太は床ばり、脚差に大入れ差しこみくぎ(1本・N75)斜め打ちとするか又は根太受け金物等を用いて床ばり、脚差に留めつける。
構造用合板は床ばり、脚差に釘で直りする。
ただし、隅角部は柱があるため、構造用合板のコーナーを切欠いて釘打ちする。



- ロ. 根太と床ばり、脚差の上端高さが異なる場合の施工方法
(構造用合板12mm以上又は構造用パネル(OSB)2級以上、N50@150以下
根太#340以下下半欠き：床倍率 1.6倍 / 根太#500以下下半欠き：床倍率 1.12倍)
床ばり、脚差に直交する根太は流りあごかけとし、釘(2本・N75)を斜め打ちとする。また、根太に平行な床ばり脚差の際にも根太を取り付ける。際根太は床ばり脚差へN90釘打ち間隔303mmで平打ちする。

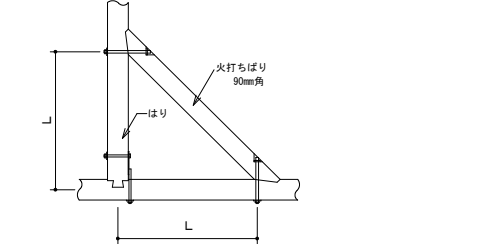


- ハ. 床ばり、脚差の上に根太を転がす場合の施工方法
(構造用合板12mm以上又は構造用パネル(OSB)2級以上、N50@150以下
根太#340以下転ばし：床倍率 1.0倍 / 根太#500以下転ばし：床倍率 0.7倍)
床ばり、脚差に直交する根太は、釘(2本・N75)を斜め打ちとする。また、根太に平行な床ばり脚差の上にも根太を取り付ける。際根太は床ばり脚差へN90釘打ち間隔303mmで平打ちする。

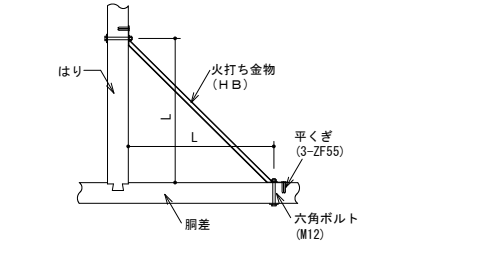


17. 火打ちばり

・木製

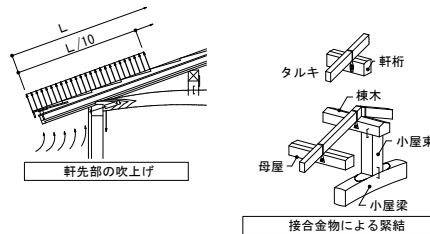
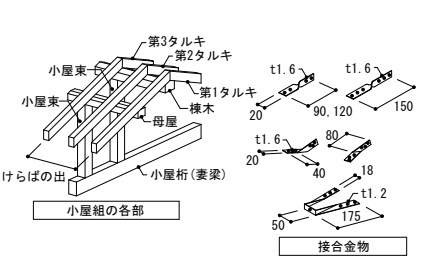


・銅製



18. 屋根・小屋組の耐風対策

- (1) 小屋火打ちばり
火打ちばりは耐力壁線に囲まれた隅角部には必ず設ける。
(2) 小屋筋かい及びけた行筋かい・振れ止め
小屋組の一体化を図るために、小屋束相互及びはり・桁にまたがる筋かい(15×90mm以上)を、釘(2-N50)にて固定する。
(3) 軒
軒先部は吹上げが大きくなるので、タルキと軒桁はくら金物等で緊結する。
(4) タルキ
軒先や妻側又は横部のタルキは吹上げが力大きく働くので、金物等で棟木及び母屋へ緊結する。
(5) 棟木母屋
棟木と第2母屋も吹上げの力が大きくなるので小屋束に十分注意して留付ける。
(6) 小屋束
小屋束下部と小屋ばりあるいは妻はり桁との留付けも同様に十分注意して留付ける。



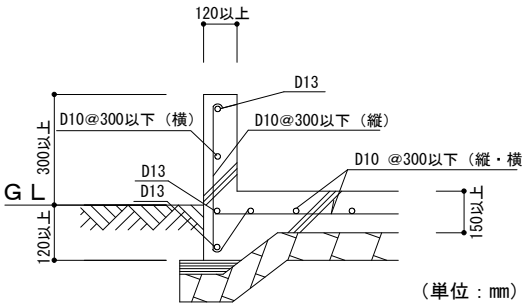
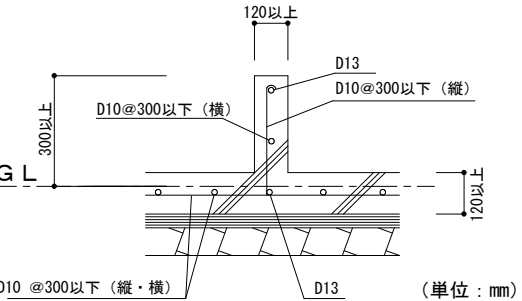
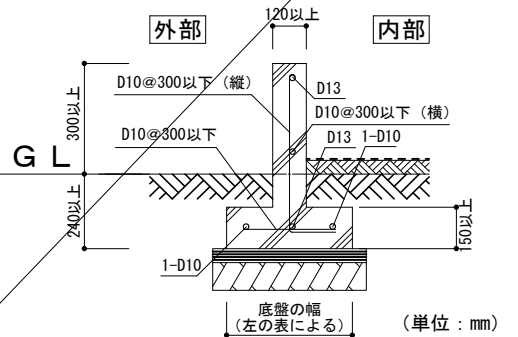
19. 補足事項 構造用製材の2級相当品の解説

目視等級区分構造用製材（構造用Ⅱ）の2級相当の品質である事を、材料購入時に検品する。

材面の品質			基準値
節*	狭い材面	材縁部	径比≦40%
	広い材面	中央部	径比≦25%
集中節**	狭い材面	材縁部	径比≦60%
	広い材面	中央部	径比≦40%
			径比≦60%
丸身			≦20%
貫通割れ	木口	木口の長辺の寸法の1.5倍以下	
	材面	材長の1/6以下	
目まわり			木口の短辺寸法の1/2以下
縦横走行の傾斜			1：8以下
平均年輪幅			8mm以下
髓心部又は髓	木口の長辺が240mm未満の場合	髓の中心から半径50mm以内の部分の年輪界がない事。	
	木口の長辺が240mm以上の場合	木口の長辺に係る材面におりるりょう線から、材面の幅の1/3の距離までの範囲において髓の中心から半径50mm以内の部分の年輪界がない事。	
腐朽			(1) 程度の軽い腐れの面積が腐れの存在する材面の面積の10%以下である事。 (2) 程度の重い腐れがない事。 (3) 土台用にあつては、腐れがない事。
曲がり			0.5%以下である事。(但し仕上材にあつては0.2%以下)
狂い及びその他の欠点			顕著でない事。

*印：材面における欠け、傷及び穴を含む、集中節を除く。
**印：材面における欠け、傷及び穴を含む。

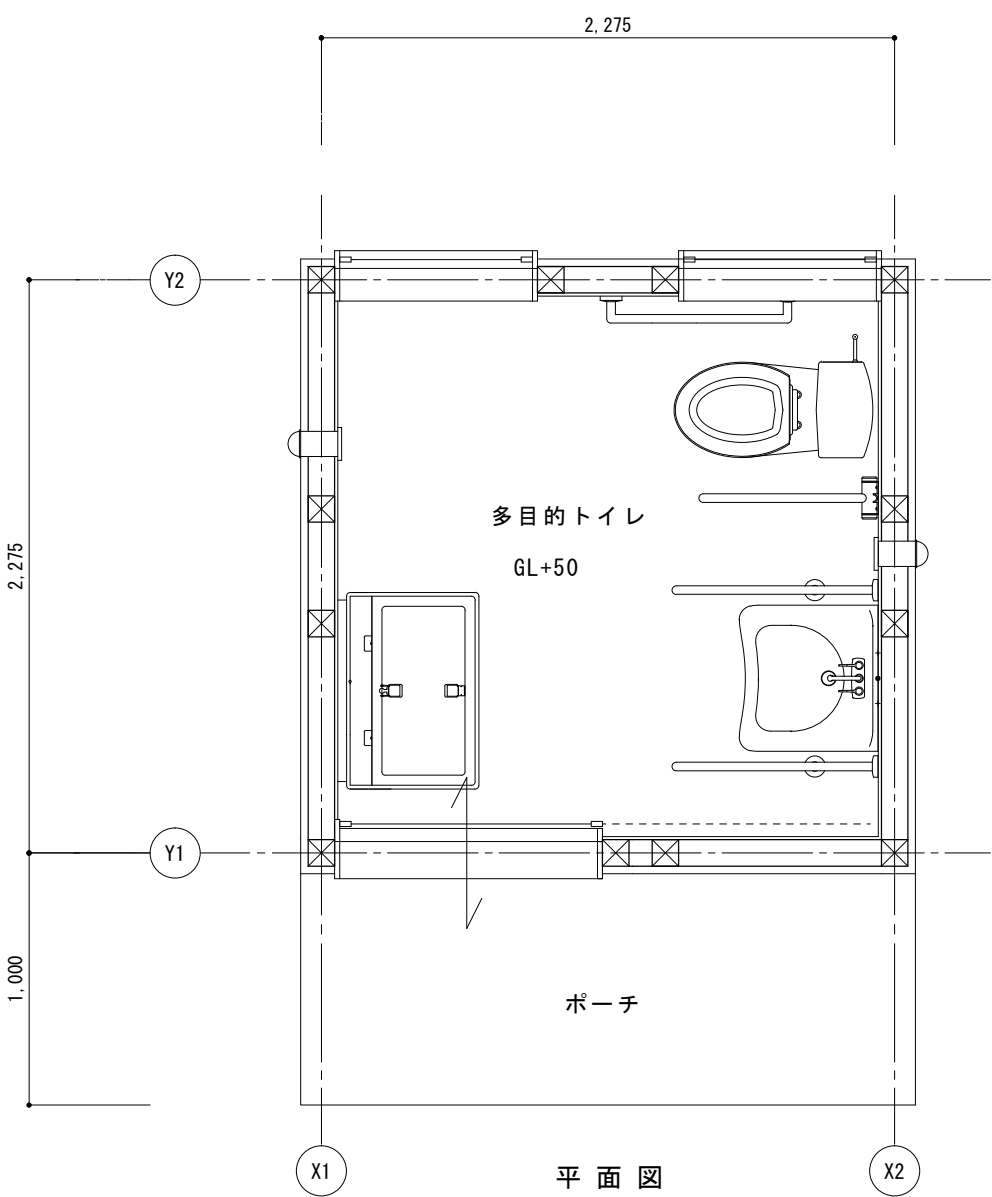
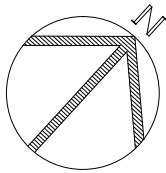
柱の接合補強				(建設省告示 1 4 6 0 号)									
使用する 壁、筋かい の 種 類	柱の位置 壁、筋かいの種類	平屋または最上階		その他の部分（２階建ての１階部分）			建築基準法施行令第４７条第１項の規定に基づく、木造の継手及び仕口の構造方法（告示 平12建告第1460号）						
		出隅の柱	その他の軸組端部の柱	上階＝出隅の柱 当該階＝出隅の柱	上階＝出隅の柱 当該階≠出隅の柱	上階≠出隅の柱 当該階≠出隅の柱	(い) 平面図・伏図等表示符号	(ろ)	平面図・伏図等表示符号	(は)	平面図・伏図等表示符号	(に) 平面図・伏図等表示符号	(ほ) 平面図・伏図等表示符号
	壁、筋かいの種類 木ずりその他これに類するものを柱及び間柱の片面または両面に打ち付けた壁	短 ぼ ど 差 し	短 ぼ ど 差 し	短 ぼ ど 差 し	短 ぼ ど 差 し	短 ぼ ど 差 し							
	厚さ1.5cm以上×幅9cm以上の木材、または径9mm以上の鉄筋の筋かい	長 ぼ ど 差 し L字金物	短 ぼ ど 差 し	長 ぼ ど 差 し L字金物	短 ぼ ど 差 し	短 ぼ ど 差 し							
	厚さ3cm以上×幅9cm以上の木材の筋かい	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合							
		左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合							
	厚さ1.5cm以上×幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛または9mm以上の鉄筋の筋かいをたすき掛け	羽子板ボルト 短ざく金物 (スクリュー釘なし)	長 ぼ ど 差 し L字金物	1.5tホールダウン 金 物	T字金物 V字金物	長 ぼ ど 差 し L字金物							
		に	ろ	と	は	ろ							
	厚さ4.5cm以上の幅9cm以上の木材の筋かい	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合	筋かい下部が 取り付く柱の場合							
		左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合	左以外の柱の場合							
	構造用合板を打ち付けた壁	羽子板ボルト・短ざく金物	長 ぼ ど 差 し L字金物	2.0tホールダウン 金 物	1.0tホールダウン 金 物	T字金物 V字金物							
		ほ	ろ	ち	へ	は							
	厚さ3cm以上×幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛	1.5tホールダウン 金 物	T字金物・V字金物	2.5tホールダウン 金 物	1.5tホールダウン 金 物	羽子板ボルト 短ざく金物 (スクリュー釘なし)							
		と	は	り	と	に							
	厚さ4.5cm以上の幅9cm以上の木材の筋かいをたすき掛	1.5tホールダウン 金 物	羽子板ボルト・短ざく金物 (スクリュー釘なし)	1.5tホールダウン 金 物×２個	2.0tホールダウン 金 物	1.5tホールダウン 金 物							
		と	に	ぬ	ち	と							
特記 ： 使用金物類は、日本住宅・木材技術センターのZ金物相当品とする事。													

基礎の種類 (建設省告示 1 3 4 7 号 1 項)		基礎杭を用いた構造 (建設省告示 1 3 4 7 号 2 項)		べ た 基 礎 (建設省告示 1 3 4 7 号 3 項)		布 基 礎 (建設省告示 1 3 4 7 号 4 項)											
使用 する 基礎 の 種類	地 耐 力 (kN/㎡)	構 造 形 式		耐力上安全に基礎杭の上部を支えるよう配置すること	1 一体の鉄筋コンクリート造とする（但し、地盤の長期許容応力度が70kN/㎡以上で、密実な砂質地盤その他著しい不同沈下などの生じる恐れのない地盤にあり、基礎に損傷を生じる恐れのない地盤にあり、基礎に損傷を生じる恐れが無い場合は無筋コンクリート造とすることができる） 2 基礎の立上がり部分、高さ＝地上部分で30cm以上、厚さ＝12cm以上、基礎底盤の厚さ＝15cm以上 3 基礎の根入れ深さ＝12cm以上かつ凍結深度以上（但し、基礎の底部を雨水などの影響を受ける恐れのない密実で良好な地盤に達したものとした場合はこの限りでない） 4 基礎を鉄筋コンクリート造とする場合 ・立ち上り部分の主筋として、径12mm以上の異形鉄筋を立ち上がり部分の上端及び立ち上がり部分の下部の底盤にそれぞれ 1 本以上配置し、補強筋と緊結する ・立ち上がり部分の補強筋は径9mm以上の鉄筋を30cm以下の間隔で縦に配置。底盤の補強筋は径9mm以上の鉄筋を30cm以下の間隔で縦横に配置 ・換気口を設ける場合はその周辺に径9mm以上の補強筋を配置												
	2 0 未満		基礎杭を用いた構造														
								2 0 以上 3 0 未満		基礎杭を用いた構造							
											べた基礎						
●	3 0 以上	●	べた基礎	・ JIS A5337-1995に適合するもの、また、同等以上	(3) 遠心力鉄筋コンクリート杭 ・ JIS A5310-1995に適合するもの、また、同等以上	(4) 鋼管杭 ・ 杭の肉厚は6mm以上、かつ、杭の直径の100mm分の 1 以上 ・ 杭の肉厚は6mm以上、かつ、杭の直径の100mm分の 1 以上 ※注 基礎杭を用いた構造とは基礎杭の上部に、べた基礎、布基礎、又はその他の構造体を築造する物をいう	3 1 べた基礎と同じ構造。但し根入れ深さ＝24cm以上、底盤の厚さ＝15cm以上 3 2 底盤の幅（基礎杭を用いた場合は下表の限りではない）										
								底盤の幅 (cm)	その他の建築物								
										平屋建て	2 階建て						
特記・基礎の種類は、地耐力に応じて上記より選択すること ・各基礎の構造基準は右表の通りとする						30以上50未満 3 0 4 5 6 0 50以上70未満 2 4 3 6 4 5 70以上 1 8 2 4 3 0											
						3 鉄筋コンクリート造で底盤の幅が24cm超の場合、底盤に補強筋として径9mm以上、鉄筋を30cm以下の間隔で配置、底盤両端部の径9mm以上の鉄筋と緊結 											
工事名称		中野方不動の滝直売所多目的トイレ整備工事		図面名称		継手及び仕口仕様書		縮 尺		-		図面番号		3		恵那市役所建設部リニア都市計画局都市整備課	

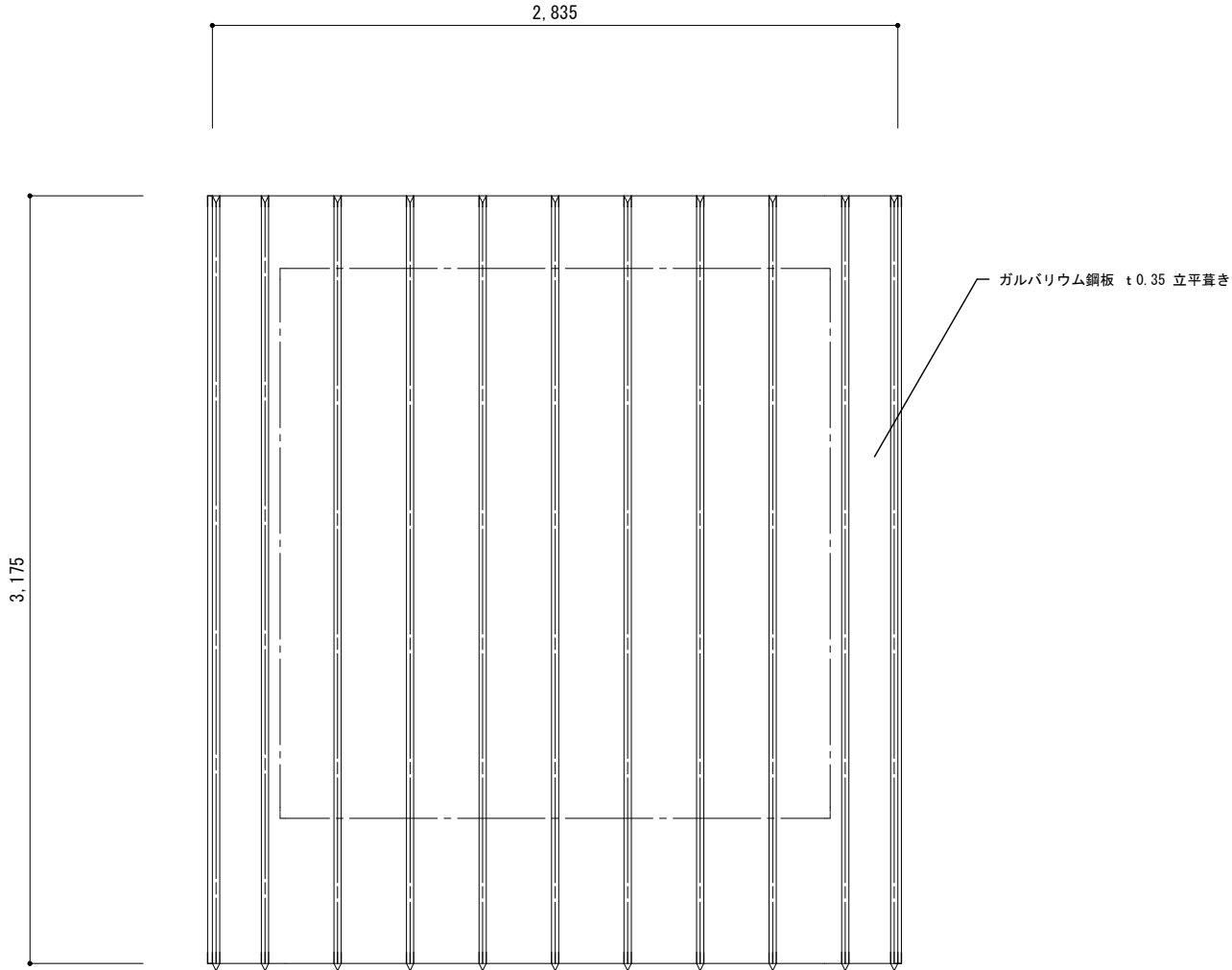
外部仕上表		内部仕上表				備 考	
屋 根	・ガルバリウム鋼板 t=0.35 ・アスファルトルーフィング	部 位 名	床	巾 木	内 壁	天 井	非常警告灯
		多 目 的	モルタル金コテ仕上	モルタル金コテ仕上	杉羽目板： t 12貼り	化粧PB： t 9.5貼り	ピクトサイン： 300＊300＊1枚
外 壁	・ 杉羽目板貼り						
巾 木	・ GL上300までモルタル仕上						

特記事項

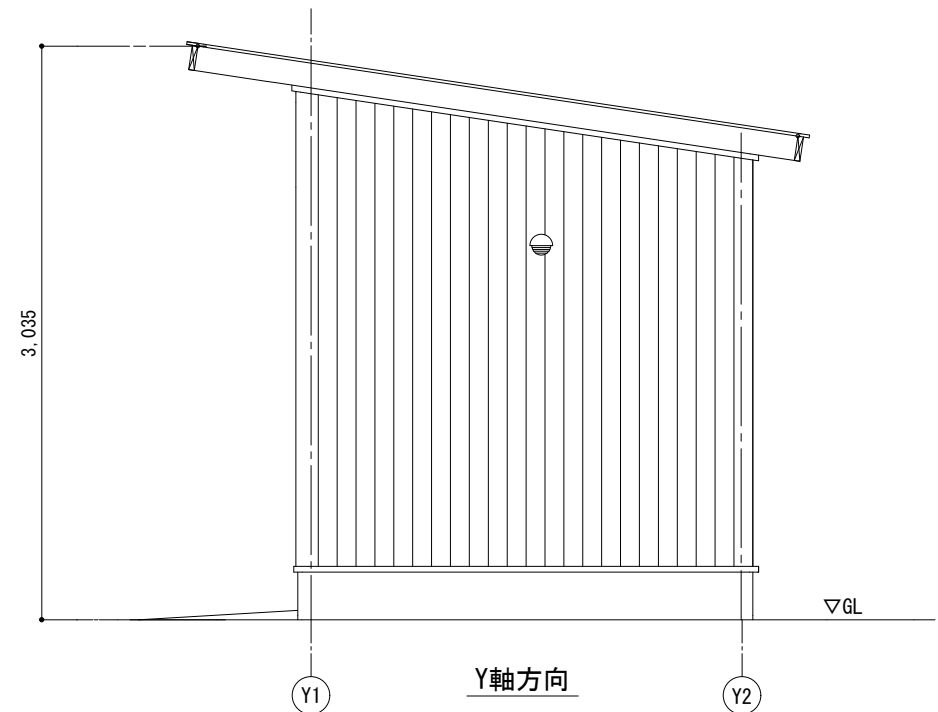
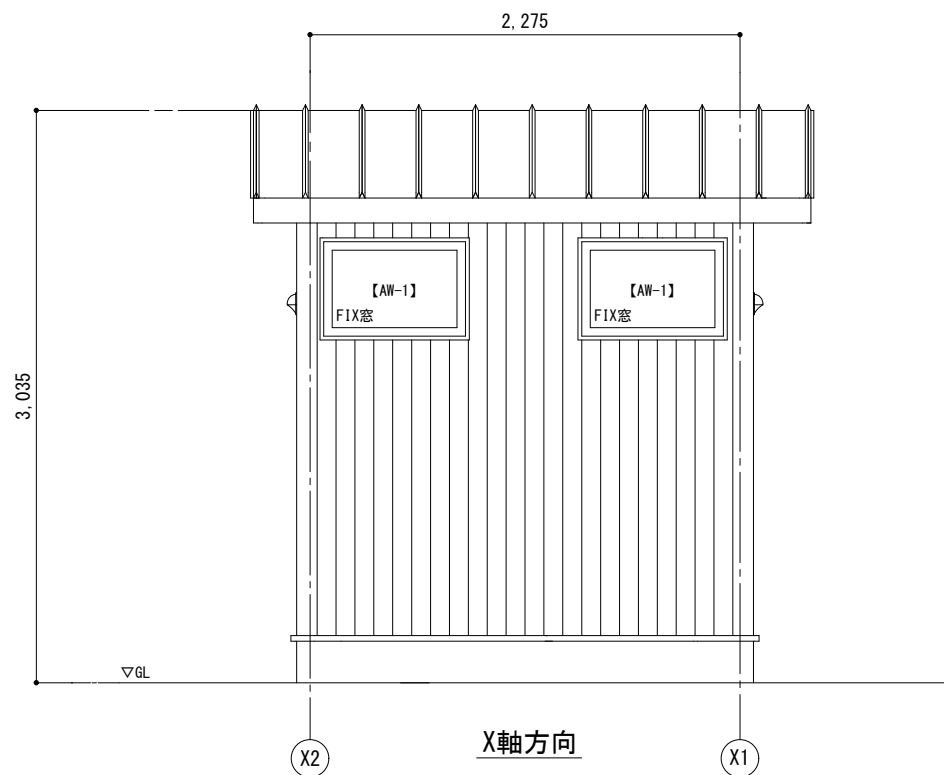
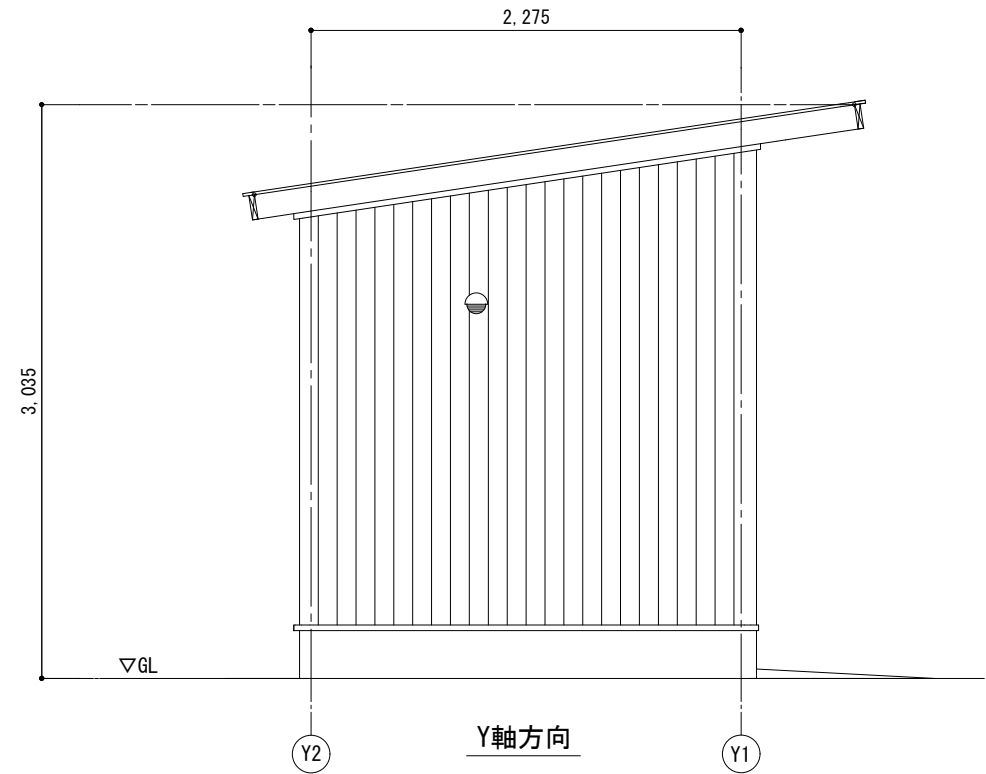
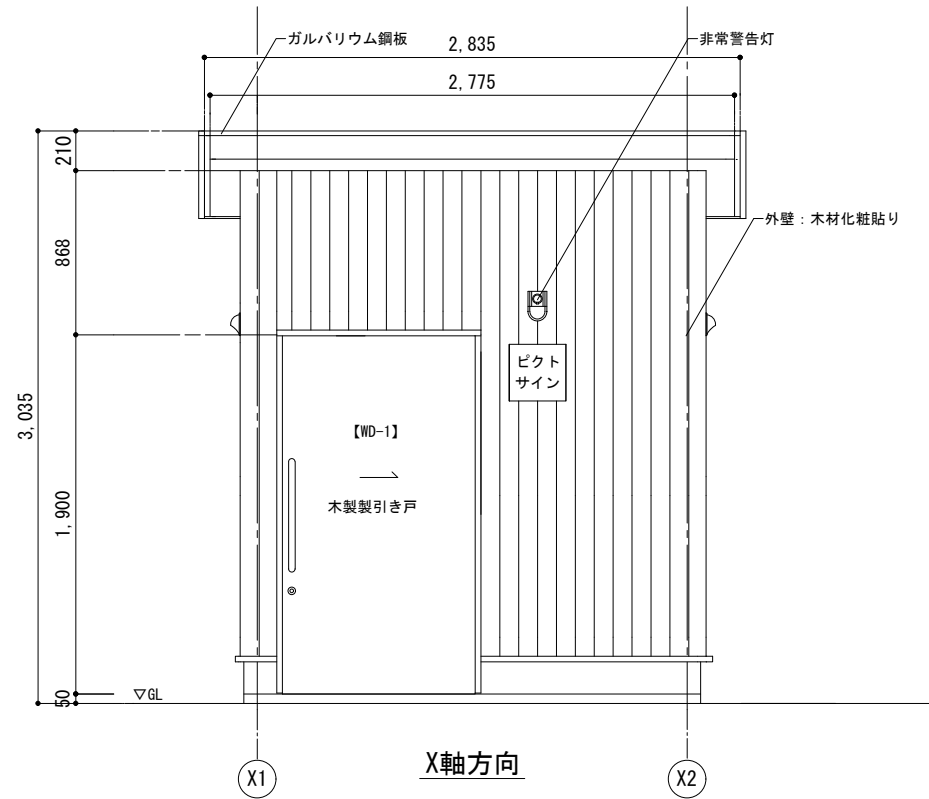
・使用木材は、岐阜県産材とする。

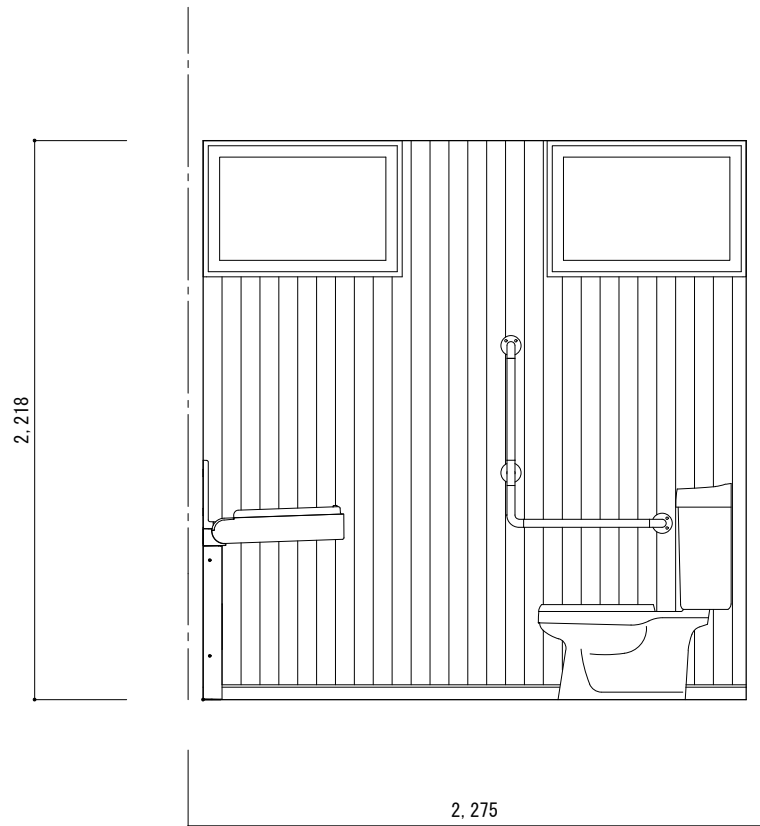


平 面 図

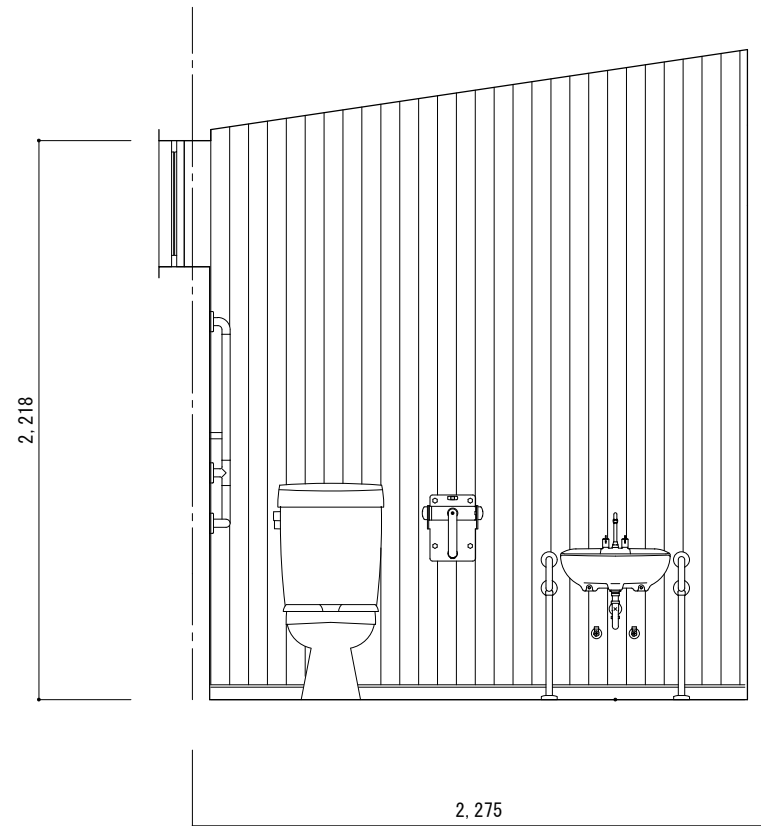


屋根図伏図

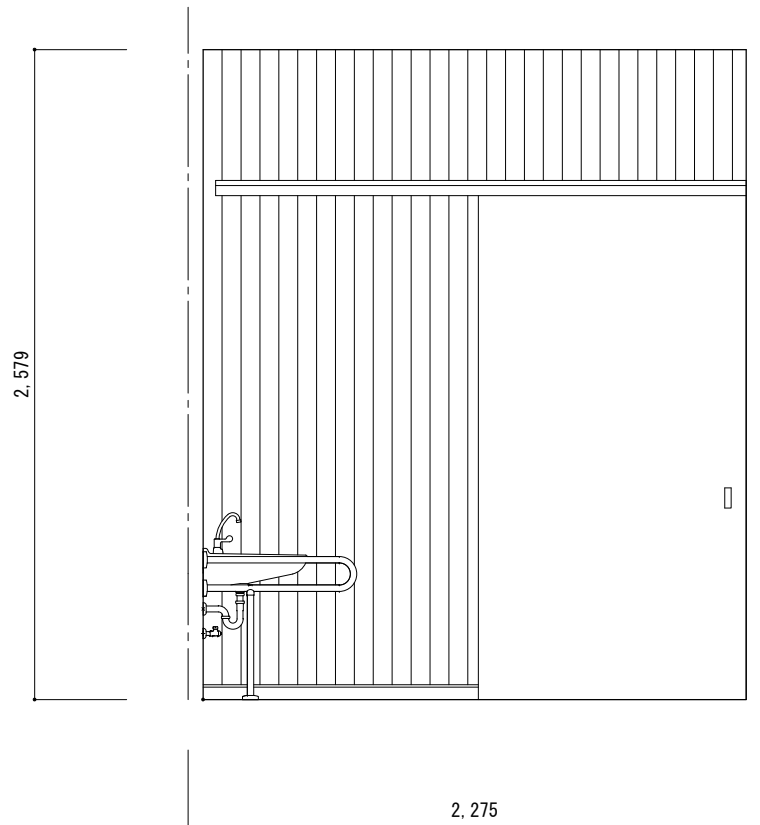




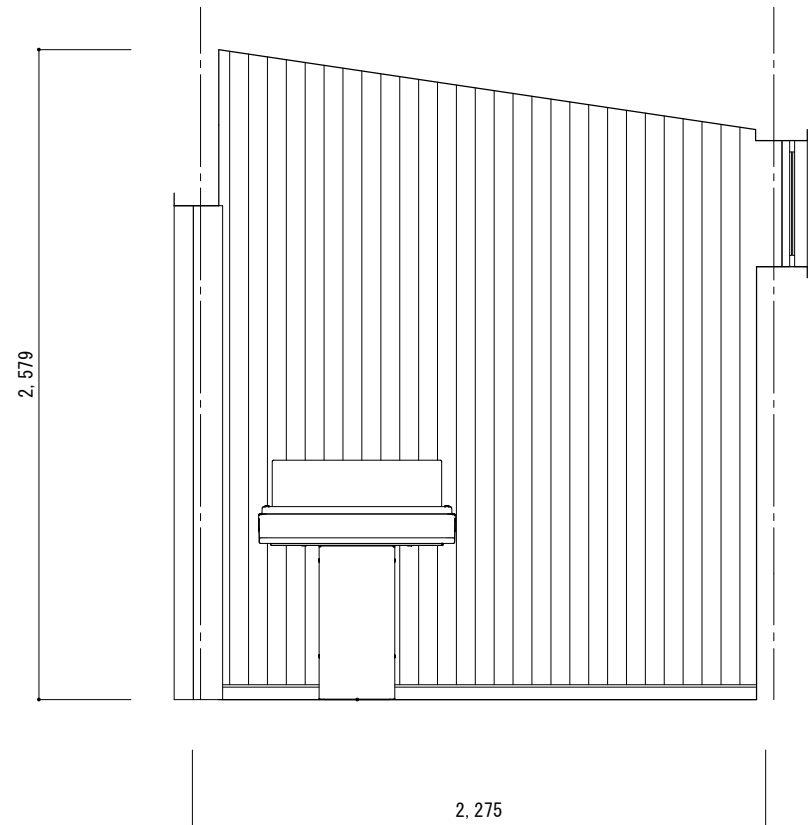
X軸方向



Y軸方向



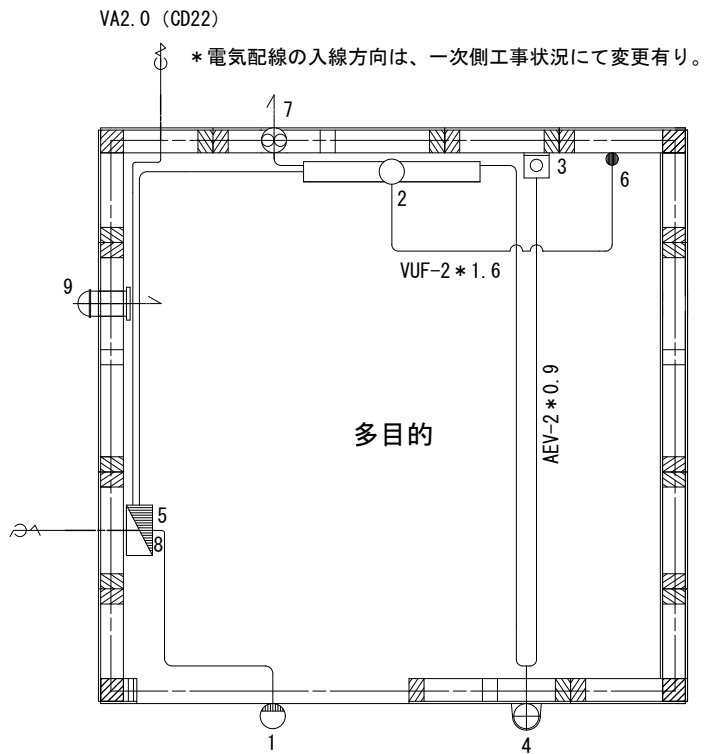
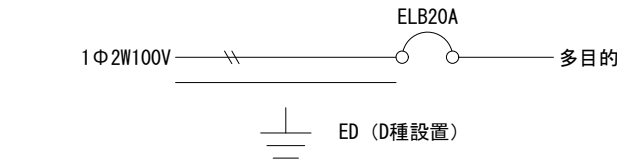
X軸方向



Y軸方向

器 具 表

No.	名 称	品 番	
		※同等以上とする	
1	人感センサー付外部照明灯	OG0416371CR+0A253287	(オーデヒュック) 1
2	室内照明灯	LGW80190LE	(Panasonic) 1
3	非常用紐付き押し釦	WS66772	(Panasonic) 1
4	警報ブザー＋非常警告灯	EA5501	(Panasonic) 1
5	分岐ブレーカ	BJS2031N	(Panasonic) 1
6	壁掛け人感センサー	WTK1811WK	(Panasonic) 1
7	換 気 扇	FY-08PTR90人感センサー付きΦ100	(Panasonic) 1
8	分 電 盤	B10-23 (鋼製・鍵付き)	(日東工業) 1
9	換 気 口	Φ100用：SUS製品	1

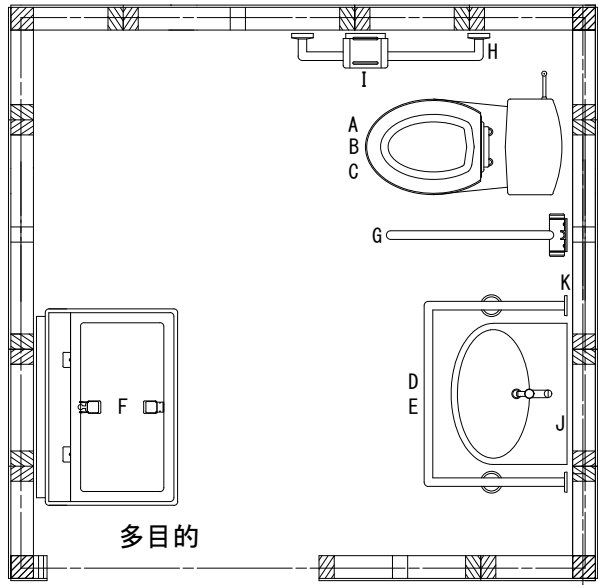


電気設備図

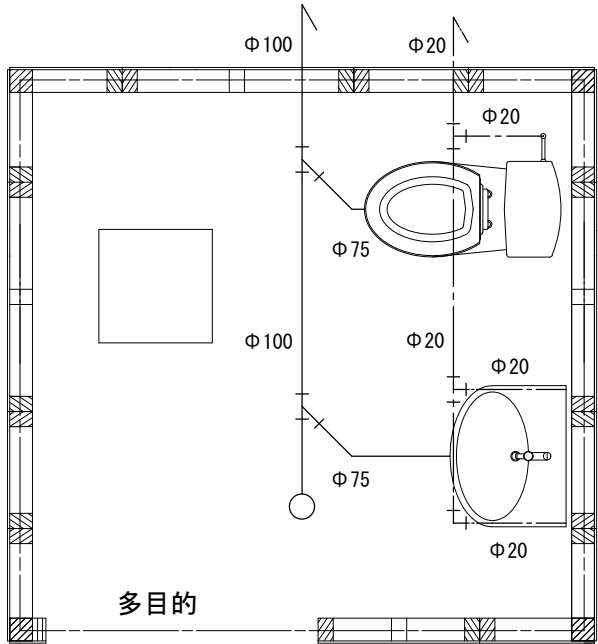
* ブルボックスの取り付け位置は、一次側電気工事の状況により変更あり。
* 非常警報灯ー非常用押し釦間は、AEV-2*0.9とし、その他は、VUF-2*1.6とする。

器 具 表

記号	名 称	品 番	
		※同等以上とする	
A	便器：車椅子対応型	GS20AB	(TOTO) 1
B	密閉タンク＋しびん洗淨水洗	SH30BA+T95WRR	(TOTO) 1
C	洗淨便座	TCF5841PR+TCA578	(TOTO) 1
D	手洗い器	L103A+TEL28SS2A	(TOTO) 1
E	手洗い器用手すり	T112CP23	(TOTO) 1
F	ベビーシート	YKA25N	(TOTO) 1
G	跳ね上げ式手すり	T112HK7R	(TOTO) 1
H	L型手すり	T112CL10	(TOTO) 1
I	紙巻き器	YH702	(TOTO) 1
J	化粧鏡	YM4560FE (盗難防止型耐食鏡)	(TOTO) 1
K	キー式横水栓	T200CSNR13 (掃除用)	(TOTO) 1



設備図



給排水設備図